

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502462		
法人名	メディカルケアサービス北海道株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム札幌福住 1階さくらユニット		
所在地	札幌市豊平区福住3条8丁目16-1		
自己評価作成日	令和1年10月31日	評価結果市町村受理日	令和1年12月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0170502462-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0170502462-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月第2木曜日に実施している「アットホームカフェ」に力を入れています。これはご利用者様の生きがい、やりがいをもち活躍できる環境を目的としており当日はご利用者様がカフェの店員となり地域の方にご家族様を接客します。皆さん玄関までお迎えに行かれ席まで案内し注文を取り運びます。お客様とお話しをされたり大変笑顔で接客し楽しかったといわれ楽しみにされています。地域交流の一環として地域の方に参加頂き気軽にホームへ遊びにきていただけるよう定着を目指しております。

また各ユニットによる行事の充実・ホームみんなで外出する全体行事にも力を入れています。ホームに閉じこもることなく外にでる機会などを大切にしています。

スタッフへの認知症研修、指導にも力を入れています。認知症の種類や関わり方など統一したケアに取り組み安心した生活を送れるように努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の閑静な住宅地の中にあるグループホームである。周辺には公園や保育園、高齢者向け施設、バス停、コンビニエンスストアなどがある。広い敷地にある3階建ての建物で、各階がそれぞれ1ユニットとなっている。広い廊下の突き当りにある半円形の窓にベンチがあり、自由に寛ぐことができる。トイレや浴室が使いやすく、各部屋に洗面台が設置されている。職員は利用者と明るく活発に会話し、利用者同士の会話も多い。比較的若い職員が多く、会議や勉強会を通じて良好な関係を築いている。地域との関わりの方では、利用者が地域のお祭りに参加し、事業所の夏祭りには20~30人の住民の参加を得ている。また、保育園児による神輿やお遊戯、利用者家族の友人による歌や楽器演奏の披露を受ける機会もある。ケアマネジメントの面では、3か月ごとの計画見直しにあたって全職員がモニタリングを行い、意見を集約している。食事の面では、調理や後片付けに利用者が参加しており、通常の献立とは別に、鍋パーティーやパンバイキング、チャンチャン焼きなどの機会も設けている。排泄の自立支援の面では、なるべくトイレで排泄できるよう、日常の活動を増やすことで改善につなげ、ほとんどの方の自立を実現している。快適な環境と職員全体の温かな支援のもと、利用者や家族が安心して生活できるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階さくらユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ毎朝朝礼にて唱和することでその内容を理解し実践している。	法人の運営理念の中で「地域の人々とのふれ合いを大切にします」と掲げ、さらに事業所独自の年間目標を立て、両方を朝礼で唱和している。事務所や共用空間に理念を掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事に参加しホームの行事に招待することで町内の一員としての機能が得られている。	近くの会館で行われる地域のお祭りに利用者と共に参加し、事業所の夏祭りには20~30人の住民の参加を得ている。保育園児による神輿やお遊戯、利用者家族の友人による歌や楽器演奏の披露を受ける機会がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症への理解を運営推進会議を通して、家族のみならず地域に発信し続けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催し地域包括支援センターから専門職員が出席し行政の新しい情報を吸収しご家族様からの意見を参考にし質の高いサービスの提供に努めている。	運営推進会議を2か月ごとに開催し、地域包括支援センター職員、民生委員、複数の家族の参加を得て、年間目標、防災、行事、職員研修などをテーマに意見交換している。地域住民の参加を引き続き呼びかけていく方針としている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市役所の事業指導係の地域担当者と連絡を密にしているのと併せて豊平区役所担当部課職員との連携が取れている。	運営推進会議に地域包括支援センターの参加があり、情報提供を受けている。管理者は市や区の管理者会議に参加し、行政担当者と情報交換している。地域向けの認知症サポーター養成講座の講師を事業所として引き受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内研修において人強いを深め統一が図れるよう取り組んでいる。玄関施錠は夜間侵入者帽子の為のみ行っている。	身体拘束を行っておらず、禁止の対象となる具体的な行為が記されたマニュアルを用意し、年に数回、勉強会を行っている。また3か月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、不適切な事案がないか確認している。玄関は日中施錠せず、利用者の出入りがあれば見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修にも積極的に参加し多くを学びスタッフ相互に助言しあっている。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階さくらユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている方はいないが、必要を想定しホーム内研修を通し知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約については管理者から重要事項説明書、契約書、重度化した指針について十分な説明がなされている。スタッフも求めがあれば説明できるよう理解を深めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の窓口を設置し他機関の窓口についても掲示するとともに直接伝えられる要望については即対応できるようにしている。	運営推進会議に複数の家族の参加があり、意見を聞いている。また、年1回家族アンケートを実施し、結果を運営に反映させている。家族から得られた意見を連絡ノートに記載し、共有している。	家族の意見や、家族の言動に関する職員の気付きなどを、利用者ごとに見やすく整理してノートなどに記録することを期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議あるいは個別面談を定期的に行うことで要望をくみ上げて反映するよう努めている。	毎月ユニット会議で活発に意見交換しており、職員の意見を事前に収集したり、意見の少ない職員に発言を促して会議を行っている。年1回、職員は管理者と面談し意見を聞いている。職員は行事や備品管理などを分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給を通して訂正な評価をしている。福利厚生は概ね2か月1回懇親会の場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や社内の事例検討会などの研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	人員不足により中々交流の機会がない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階さくらユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初のコミュニケーションを大切にしながら安心して何でも話せるよう環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時などに日々のご様子を職員誰でも報告できるようまた、何気ない会話なども心掛けいつでもお話して頂けるような雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント、カンファレンスにて現状報告や今後必要になりえる支援について等細かな話し合いをしながら今必要な支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側と考えず出来ることは継続できるように今までに近い生活をして頂ける様努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と過ごされることを最優先し、その中で困ったことがある際はいつでも手助けが出来るよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員ではないが入居前に行きつけの美容室に行かれていた方、かかりつけの病院に行かれていたご家族の協力のもと継続できているかたもいる。	数名の利用者に友人や知人などが来訪している。2名の利用者は家族と一緒に馴染みの美容室に通っている。個別外出支援として、ドラッグストアへの買い物や、旭山公園へのドライブに出かけたり、好きなケーキを食べに行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご自身で居室を好まれている方もいるが交流が出来る機会は設けられている。その中で合わない方もいるが席の配置交流の仕方は工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階さくらユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は頻度は少ないが連絡を頂ける方もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	じっくりと暮らしの意向を聞いてかなえることは難しいこともあるが、会議などで話し合いながら検討し付きることから少しずつ努めている最中。	半分ほどの方は言葉で思いを表出でき、難しい方も表情や家族からの情報などで把握している。新たな様式のアセスメントシートを作成しているが、趣味や嗜好などの具体的な情報は少ない。	新たなアセスメントシート様式の「ICFモデル」のページに、以前のセンター方式B-3シートの趣味や嗜好などに関する情報を盛り込んで作成することを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご家族様からの事前情報は頂いているが全職員が共有できていないと感じる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りなどから現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人一人のモニタリング、意見が反映されご家族様の意向も取り入れられていると思う。	介護計画を3か月ごとに更新している。職員全員が評価を行い、会議で意見を取りまとめ、次の計画を作成している。日々の記録は介護計画を参照し、目標番号を記載しながら記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会議や個別に連絡ノートを付け発信できているが共有実践まで不十分に感じることがある。都度気づきが大変なこと伝えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カンファレンスや面会時に話をしながら状況に応じ対応できるよう努めている。出来ない決めつけずに可能な限りお互いが納得し安全に取り組めるよう話し合っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの保育園や町内会交流で関わることで笑顔になられ楽しんでいただけるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後皆様往診希望されている。	ほとんどの利用者は協力医による月2回の往診を受け、1名の方は家族とかかりつけ医に通院している。受診内容を個人ごとの「看護経過記録」に記載し、共有している。家族に利用者の健康状態を電話やお便りで知らせている。	

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階さくらユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問され普段の様子や変化を伝え連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は主治医も含め情報提供をしっかり行っている。 入院後は、ご家族様に状況報告いただきながら病院とやり取りし治療がすんだら早期退院できるよう相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に伝えるほか、入居者様の変化に合わせて定期的にご家族の意向を確認して往診医とも共有している。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」と「看取り介護の指針」を説明し、同意書に署名捺印を得ている。最近は見取りの事例がないが、医療機関や家族などの協力体制が整えば看取りを行う方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回ホーム内研修にて学ぶ機会があり、緊急マニュアルも整備されいつでも見られるようにある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害時の訓練をしている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行い、うち1回は消防の指導も受けている。訓練への地域住民の参加は得られていない。災害時に必要な備蓄品や防災マニュアルを用意している。一方、職員の救急救命訓練は計画的に行っていない。	訓練に地域住民の参加、協力が得られるよう、継続的な呼びかけを期待したい。また、全職員が3年に1回程度、救急救命訓練を受講できるよう、取り組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合わせた声掛けの工夫が出来ている。	利用者への呼びかけは「さん」づけとしている。法令順守やプライバシー保護などの内部研修を実施している。申し送りはイニシャルで行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動を制限してしまう様な声掛けにならないよう気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、その方がしたいことを傾聴し時間を作り支援している。居室を好む方、皆さんといたい方自由に過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装をして頂ける様支援しているが、その方のこだわりは尊重している。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階さくらユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、食事の盛り付けや片付けを皆様自ら手伝ってくださり日課になっている。	法人の献立を基本に、パンバイキングや鍋パーティーなどユニットごとに工夫を凝らしている。スイートポテトや南瓜プリンと一緒に作ったり、洋食店やハンバーグレストランに出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事については毎月会議で話し合い必要に応じ変更対応する。水分は日中で1度経過を出して不足分は好みで進みのいいものを提供したり個別に対応する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアが習慣づいている。一人一人に合わせ歯間ブラシや洗口液を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつやパットの汚染、失禁が減少するよう、排泄時間や回数チェックしその方のパターンを把握事前の声掛けをしている。	ほとんどの方が自立しているが、全員の排泄を記録して失敗が少なくなるように声かけすることもある。活動を増やしたり服薬を中止することで、排泄用品の使用が無くなるなど改善した事例も多々ある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では栄養士監修の食事提供。毎朝牛乳提供。個人に合わせ運動提供や必要に応じ、往診医より下剤調整もあり。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否ある場合も無理せず対応できるときに行えている。曜日時間の固定はしていない。	毎日入浴が可能で、午前中を中心に一人週2~3回入浴している。入浴を拒む場合は誘う時間を変更することもあるが、入浴剤を使用したり好みの湯温にしてゆっくり入浴を楽しめるように工夫している。職員との会話も楽しみのひとつになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息はご本人のタイミングでされていますが、長すぎると昼夜逆転に繋がるので時間を見ながら声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報はいつでも確認できる場所に整備しており、処方されているものに関しては必ず確認するようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しんでいただけるように定期的に提供している。外出行事、レク等も得意不得意なども考慮してひとりひとりに合わせられるように努めている。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階さくらユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様にもご協力いただきながら外出して頂いたり、こちらにも月に何度か外出行事を設けている。行事の他にも普段より天候による散歩などが行えている。	普段は周辺や駐車場を散歩したり、車で買い物に出かけることもある。お弁当を持っておたる水族館に出かけたり、旭山公園などに個別に外出している。冬季もファクトリーのツリー見学や地域の日曜カフェに出かけるなど、年間を通して外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所に保管しているが、ご本人の購入希望や所持金を確認したいときは確認して頂けるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身でケータイ電話を所持されている方もいる。電話したい希望があれば都度対応ゆっくり話して頂ける環境にも配慮に努める。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには、月の行事写真や皆様に創作した壁飾りを展示している。毎回次は何？と楽しみにしてくださっている。	開放感のある食堂や居間の他、廊下の突き当りにベンチがあり好きな場所でゆっくり寛ぐことができる。壁には日常風景や行事の写真を拡大して見やすく掲示している。利用者の「願いの木」やスクラッチのポストカードなど、ユニットごとに工夫した作品がさりげなく飾られており家庭的な温もりが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席は状況に応じ気の合う方同士のグループになっており席やソファに自由に行き来し過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族様にお話しし、馴染みのあるものを配置できるようにお願いしている。毎朝の清掃と定期的に整理整頓しながら過ごして頂いている。	各居室には洗面台が備え付けられている。好みのベッドやタンス、テレビなどを持ち込んで使いやすく配置している。壁には、写真や塗り絵などの作品、誕生日のお祝い色紙などが貼られている。ドライフラワーや草花などを飾っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	建物自体の構造に死角などもあるが見守りの工夫などしながら行って頂いている。危険だからできないではなくどうしたら危険を回避しながら出来る事を継続できるか考え努めている。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502462		
法人名	メディカルケアサービス北海道株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム札幌福住 2階ひまわりユニット		
所在地	札幌市豊平区福住3条8丁目16-1		
自己評価作成日	令和1年10月31日	評価結果市町村受理日	令和1年12月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170502462-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170502462-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月第2木曜日に実施している「アットホームカフェ」に力を入れています。これはご利用者様の生きがい、やりがいをもち活躍できる環境を目的としており当日はご利用者様がカフェの店員となり地域の方たご家族様を接客します。皆さん玄関までお迎えに行かれ席まで案内し注文を取り運びます。お客様とお話しをされたり大変笑顔で接客し楽しかったといわれ楽しみにされています。地域交流の一環として地域の方に参加頂き気軽にホームへ遊びにきていただけるよう定着を目指しております。

また各ユニットによる行事の充実・ホームみんなで外出する全体行事にも力を入れています。ホームに閉じこもることなく外にでる機会などを大切にしています。

スタッフへの認知症研修、指導にも力を入れています。認知症の種類や関わり方など統一したケアに取り組み安心した生活を送れるように努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼で理念を唱和し、共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日曜カフェ、近所の保育園児のおみこしやアットホームカフェなどを通し交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日曜カフェ、アットホームカフェなどで活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の意見を取り入れサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区の会議に参加しホーム行事の取り組みを伝えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などを通し全スタッフが学び理解している。そのうえでケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などを通し学んでいる。スタッフ同士注意を払い防止に努めている。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などを通し学んでいるが未だ理解が浅いところがあるため今後も継続して学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	しっかりと時間を設けて説明にあたっている。疑問点など早期解決できるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望を言いやすい雰囲気作りに努め、意見などは全スタッフに送り反映するよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談を実施し反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から意見要望を聞き取りできるよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修の実施、外部研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修にて交流の機会を持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の声に耳を傾けながら安心できる声掛けなどに心掛け関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの声に耳を傾けユニットまたはホーム内で共有し対応、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント表などから事前に情報を共有し必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝い等できることは一緒に行い、主体性を尊重したケアを心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度のおたよりで近況報告、面会時にも行っている。また特変などあればその都度電話などで報告してる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の面会や外出などの支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お手伝い、レク、行事を通し関わって頂けるようにときには間に入り対応している。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族様から連絡いただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	2人になれる時間を大切にし意見、希望の把握に努め、ユニットにも周知するよう心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族様からお聞きして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子観察、情報共有し把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様から話を伺い現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々記録に記入、スタッフ間で情報共有し介護計画の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況ニーズに都度柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣保育園や町内会との関わりで日々暮らしに楽しみを感じて頂けるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携しながら安心して生活して頂ける様努めている。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて日常や特変の情報を共有し連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族様とホームからの情報を伝え、退院時には今後の方針をしっかりと話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医も交えしっかり説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を開き学ぶ機会があり、上長に確認できる環境がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行っている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員がプライバシーに配慮した言葉掛けを心掛けていますが、排泄確認など声大きいこともあり注意したい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言いやすい雰囲気作り、急がせないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	仕草や行動を見極め個々にあった生活への思いを察するよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服など選んでもらったり、月に一度訪問美容師が来て希望される方の散髪、髪染めをしている。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、洗い物、食器拭き、片付け、味見など日々力を発揮されている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の声掛けをし、すすまない方には好みの物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛け、ケア後の確認、仕上げを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて状況把握している。 必要に応じて誘導や声掛けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と相談しながら下剤なども利用し調整している。 水分提供や運動も心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は固定せず1日3名目安に入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じ日中休息していただいたり安心して眠れるような声掛けするよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はすぐ確認できるようファイリングしている。 変更なども記録し落とし情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が進んで行ってくださること、自主行動を尊重している。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状、人欠もありあまり外出の機会を提供できていない 家族様にも協力いただき外出機会を作れるようにお願いしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所にて管理している。 希望があればご家族様にリスク説明しお持ちいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身でケータイ電話を管理されている方もいる。 年末は年賀状作りを行事に取り入れたりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられる装飾や写真を飾るように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの自席以外にソファやベンチなどの共有スペースで話される方、居室でゆっくりされる方、ご自由にいただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様がご本人にあった家具、お家で使っていたものなどを持ってきてくださっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なにができるか、わかるかをユニット内で共有し自立した生活が送れるよう工夫している。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502462		
法人名	メディカルケアサービス北海道株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム札幌福住 3階こすもすユニット		
所在地	札幌市豊平区福住3条8丁目16-1		
自己評価作成日	令和1年10月31日	評価結果市町村受理日	令和1年12月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170502462-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170502462-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月第2木曜日に実施している「アットホームカフェ」に力を入れています。これはご利用者様の生きがい、やりがいをもち活躍できる環境を目的としており当日はご利用者様がカフェの店員となり地域の方にご家族様を接客します。皆さん玄関までお迎えに行かれ席まで案内し注文を取り運びます。お客様とお話しをされたり大変笑顔で接客し楽しかったといわれ楽しみにされています。地域交流の一環として地域の方に参加頂き気軽にホームへ遊びにきていただけるよう定着を目指しております。

また各ユニットによる行事の充実・ホームみんなで外出する全体行事にも力を入れています。ホームに閉じこもることなく外にでる機会などを大切にしています。

スタッフへの認知症研修、指導にも力を入れています。認知症の種類や関わり方など統一したケアに取り組み安心した生活を送れるように努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階こすもすユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に運営理念の唱和を行い共有した上で意識をして実践出来るようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に1度の夏祭りや月に1度のアットホームカフェの他、地域の保育園との交流もあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に1度アットホームカフェを開催し外部の方を招き、ご入居者様と共に接客することで、認知症の方と触れ合う機会を作り理解して頂ける場を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在のホームでの取り組みやサービス提供をお伝えし、意見交換させて頂き、サービスの向上に活かし共有している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町内会や地域包括支援センターと協力して各研修や認知症サポーター養成講座にも参加している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットドアや玄関は夜間以外開錠出来るよう心掛けている。他、研修等で身体拘束への理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止等研修機会を設けたい、声掛けの仕方や対応で気づいたことは職員同士で注意出来るようにしている。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階こすもすユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で制度について学ぶ機会を設けて理解を深めている。成年後見制度を利用されている方も入居されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を別途設けて丁寧な説明を行っている。他、不安や疑問点がないか尋ね、説明させて頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートを行い、結果を話し合い改善出来るよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日頃のコミュニケーションアンケートでの意見交換を行い、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見や要望を日頃より聞き取っている。他、上長との個人面談も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修や外部研修に参加する機会があり、学ぶ場を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームとの研修する機会があったが、現在は少なくなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階こすもすユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家庭での習慣を事前にお聞きし、居室には、なじみのある物を持ち込み安心して生活送って頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族様から不安、要望等をお聞きし、サービス提供に活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、サービス提供を実施している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来る事、出来ない事を見極め、自立支援を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの日常、行事の様子を月に一回、個人通信でお知らせしたり、ご家族様来訪時にその都度お知らせしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人との手紙、電話でのやり取りを行ったり、ホームに来訪され交流の場を設けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事の際、入居者様同士が交流できるよう、職員が必要時、間に入り対応を行っています。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階こすもすユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、ご家族様が来られたりすることがあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で希望や意向を把握できるよう努めたり、過去の生活の情報収集を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの情報を大切にしています。また、職員同士で情報共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録をしっかりと残すこと、申し送りをしっかりと行い、日々の様子を観察し情報共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の気持ちとご家族様の気持ちの思いをお聞きし、状況に応じたサービスを提供しております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員個々の視点で感じたことを伝えモニタリングを活用し、ケアプラン作成に活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方に合ったサービスを提供出来るよう努めております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣保育園や町内会との関わりを行い、楽しみを感じて暮らして頂けるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携取り安心して頂ける様努めている。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階こすもすユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護では、日常の様子、特変事項を伝え、連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族様ホームからの情報を伝え、早期退院に向け話し合いを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医も交え今後のケアについて話し合いの場を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修や会議で学ぶ機会があります。また職員同士で声掛け合い確認しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修や会議で話している。避難訓練も実施している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの工夫をしている。利用者様お一人、お一人の人格を尊重し、プライバシーに配慮し対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の声にしっかりと耳を傾けています。傾聴しケアに反映させています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせております。出来る事、出来ない事の見極めケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容、入浴後の整容等、その方に合った身だしなみをしていただいています。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階こすもすユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け等、声掛けしお誘いしています。食器洗い、拭いたり見守りしながらしてくださっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を1500CC以上摂取できるよう、努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けをし行っております。必要な方は、一部お手伝いしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて状況把握している。必要な方には定期的な声掛けをし誘導しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と相談しながら調整している。水分提供や体操等の運動を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は固定せず1日3名目安に入浴して頂いている。必要な方には足浴を実施しております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息が必要な方には休んでいただいております。昼夜逆転にならない様注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報をすぐ確認できるようファイリングしている。変更があった際は記録に記入、申し送りし情報共有しています。服薬の方法もその方によって変更しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の負担にならない範囲で家事活動を手伝って頂いたりし、レクリエーション活動を行い楽しみ、やりがい等感じて頂ける様努めてる。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階こすもすユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一度は外出することは心掛けております。また毎月ではないですが個別の外出支援も実施しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所にて管理している。希望があればご家族様にリスク説明し承諾を得ています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があればつないでいます。年末は年賀状のやり取りなど行っております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾など、ご入居者様と出来る事は一緒に行い、作成し掲示し楽しませています。トイレ、浴室等、目印になる物を貼ったりし工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの共有スペースで話される方、居室でゆっくりされる方、ご自由に行き来されています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に協力いただきながら馴染みの物をお持ちいただいています。安心できる空間作りを務めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者様の視界に入る掲示物は見やすい様、低く、大きく掲示しています。日めくりカレンダーを使用し日にちの認識して頂ける様努めてる。		



## 目標達成計画

事業所名 愛の家グループホーム札幌福住

作成日：令和 1年 11月 29日

市町村受理日：令和 1年 12月 2日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	アセスメント用紙を変更したが使い方を全スタッフが理解できていない。	全スタッフがアセスメントの様式を理解し、使用することができる。	ケアプラン及びアセスメントについての研修を行う。 また提出されたケアプラン、アセスメントを全員分管理者が確認できていなければ再度研修を設ける。	一年間
2	10	家族様の意見や家族様の言動などに関する職員の気づきなど利用者様ごとに整理してノートなどに記録ができていない。	ご家族様とコミュニケーションを取り感じたことをきさいすることができるようになる。	面会に来た時に必ずご家族様と話し会話をしたことをノートへ記載し全スタッフが確認し次回の面会時の会話への指標とする。	一年間
3	35	避難訓練に地域の方の参加がない。	地域の方や近隣事業所への協力を依頼する。	近隣住民や近隣事業所とのより良い関係性作りに努める。	一年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。